

ジュリアン

INDEPENDENT PICTURES PRESENTS AN IP PRODUCTION IN ASSOCIATION WITH FORENSIC / 391 FILMS
A FILM BY HARMONY KORINE "julien donkey-boy" EWEN BREMNER CHLOE SEVIGNY WERNER HERZOG
CASTING BY HOPKINS / SMITH / BARDEN AND LORI EASTSIDE LINE PRODUCER JIM CZARNECKI
SOUND BY BRIAN MIKSIS EDITED BY VALDIS OSKARSDOTTIR DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY ANTHONY DOD MANTLE
PRODUCED BY SCOTT MACAULAY ROBIN O'HARA PRODUCED BY CARY WOODS WRITTEN AND DIRECTED BY HARMONY KORINE

© 1999 INDEPENDENT PICTURES. ALL RIGHTS RESERVED. 株式会社東北新社 株式会社タキコ・ホレーション

監督・脚本：ハーモニー・コリン / 出演：ユエン・ブレンナー、クロエ・セヴィニー、ヴェルナー・ヘルツォーク
キャスト：ネアキンス、スミス、バーデン、ローリー、イーストサイド / ラインプロデューサー：ジム・ツァーネック / 音響効果：ブライアン・ミクス / 編集：ヴァルディス・オスカドッチャ / 撮影：アンソニー・ドット・マントル / 製作：ケイリー・ウッズ、スコット・マコーレー、ロビン・オハラ
1999年ベネチア国際映画祭・トロント国際映画祭 正式出品作品 / 1999年アメリカ映画 / 101分 / スタンダードサイズ / トルビースR / 原題：Julien Donkey-Boy / 提供：株式会社東北新社・株式会社タキコ・ホレーション / 配給：株式会社東北新社

映像の常識を覆し、それぞれの世代に強烈な印象を与えたフィルム・メーカーたち、ゴダール、ヘルツォーク、デレク・ジャーマン、フェリーニ、カサヴェテス・・・彼らのオリジナリティは観客を興奮と陶酔へと導いた。ハーモニー・コリン、彼もその一人になるだろう。

スクリーン・インターナショナル



ストリートが生んだ若き天才映画作家、ハーモニー・コリンの最新作が遂に登場

映画狂のスケートボーダーとして少年時代を過ごし、その鋭利な知性と膨大な知識量で写真家ラリー・クラークを驚嘆させ、彼の初監督作品『KIDS』の脚本を書いたのが弱冠19歳。ハードな日常を送るNYのストリート・キッズをリアルに描き、一大センセーションを巻き起こしたハーモニー・コリン。続く初監督作品『ガンモ』で映画界に“恐るべき子供”の到来を告げ、先鋭的な観客、クリエイターからの熱狂的な支持とリスペクトと同時に、保守的な批評家連中からの激しい罵言雑言を同時に浴びることとなった。そして待望の監督第二作『ジュリアン』はまさに21世紀の幕開けにふさわしい前衛として重い衝撃力と斬新な美意識を持ち合わせた傑作に仕上がりに、ヴェネチア映画祭ワールドプレミア、トロント国際映画祭における上映では、“デジタル世代の印象派”映画として観客を興奮と陶酔へと導いた。

優しさに満ち溢れた眼差しが私たちの心を釘付けにする

ハーモニーは本作『ジュリアン』において『ガンモ』よりさらに説明的な描写を排除し、彼がぶっさらばうに差し出す映像を観る者がそれぞれの視線で受け止めることを望んでいるという。崩壊寸前の家族の日常を映し出す奇妙で美しい映像に身をゆだねるうちにジェネレーションXよりさらに後の世代が抱く痛みが突き刺さると同時に、リアリティを越えた魂の救済にまで心がひっぱられていく。ストリートに根ざした些末な日常を題材としつつ、常にありのままの現実をストレートに且つ優しく見つめるハーモニーの視線を感じる時、その優しさの本質が私たちの心を釘付けにする。

ユース・カルチャーを象徴する刺激的なキャスティング

盲学校の教師をしている青年ジュリアンは、飼い犬に異常な愛情を注ぐ祖母と妻を亡くしたエキセントリックな父、レスラーを夢見る弟クリス、未婚でありながら妊娠している姉パールと暮らしている。典型的なマッチョ思想の体現者でもある父の異常な言動と怒りの発作に苛まれる家族の奇妙に平凡な日常が独特の映像感覚でスケッチされていく。盲学校で献身的に働く一方、心に深い闇を抱えるジュリアン。そんな彼の心の安らぎである姉パールに悲劇が訪れるとき、ジュリアンは現実との均衡を失う。主人公ジュリアンを演じるのは、『トレインスポッティング』のスパッド役が強烈な印象を残したイギリスのユースカルチャー系映画のヒーロー、ユエン・ブレンナー。そして姉のパール役には『KIDS』以来のハーモニー作品の常連であり、実生活でも彼のパートナーであるクロエ・セヴィニー。『ボーイズ・ドント・クライ』では堂々オスカーの助演女優賞にノミネートされ、ストリート感覚とエレガンスを兼ね備えた独自の存在感で現在最も注目されている若手女優である。そして父親役には、ハーモニーが敬愛し、最も影響を受けたドイツの鬼才監督ヴェルナー・ヘルツォーク。この異色のキャスティングに加え、撮影にはトマス・ヴィンダーベア監督作『セレブレーション』のアンソニー・ドット・マントル。編集には同じく『セレブレーション』『ミフネ』のヴァルディス・オスカドッチャ。小型デジタルカメラを駆使した映像や、静止画像、ボラロイドで撮ったスチールなどの斬新な映像が21世紀に続く映画の未来の到来を告げている。

STAFF/監督・脚本：ハーモニー・コリン/キャスティング：ピリー・ホプキンス、スザンヌ・スマイス、ケリー・バーデンローリー・イーストサイド/ラインプロデューサー：ジム・ツァーネック
音響効果：ブライアン・ミクス/編集：ヴァルディス・オスカドッチャ/撮影：アンソニー・ドット・マントル/プロデューサー：ケイリー・ウッズ、スコット・マコーレー、ロビン・オハラ
CAST：ユエン・ブレンナー、クロエ・セヴィニー、ヴェルナー・ヘルツォーク、エヴァン・ニューマン、ジョイス・コリン、クリッシー・コビラク/1999年/アメリカ映画/101分/スタンダードサイズ
ドルビーSR/原題：Julien Donkey-Boy/日本語字幕：石田泰子/提供：株式会社東北新社・株式会社タキコーポレーション/配給：株式会社東北新社/©1999 Independent Pictures. All Rights Reserved

これが、映画の最先端。
2001年新春公開決定
1.20 詳しい日程・上映時間は劇場までお問い合わせ下さい。

パラダイスシネマ 06 (6282)
心斎橋アメリカ村BIG STEP 4F 1460

◆前売券¥1500発売中◆ オリジナルポストカード付 (劇場窓口のみ・先着限定)
劇場窓口、チケットぴあ、ローソンや市内プレイガイドなどでお求め下さい